

校長室から

「一年の終わりにあたり」

暮れも押し迫ってまいりました。保護者の皆様にはご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。この2学期の間、本校の教育にご支援とご協力をいただきましたこと、ここに厚くお礼申し上げます。

今年は、本当に忘れられない年になりそうです。私たち日本人が、忘れてはいけないことが、3月11日、本校の卒業式が終わった日の午後に起こりました。予想もしていなかった大震災、津波、そして原子力発電所の事故。以来、9ヶ月が過ぎても、現地の人々の悲しみや苦しみは癒えることはありません。

この大震災を受けて、あらためて人々の繋がり、絆という言葉が見直されようとしています。日本には、「困ったときはお互い様」というすばらしい言葉があります。震災があって大変な年ではあったけれども、日本人の美德である、思いやりの心を今一度見直し、これからもできる限りの支援を続けていきたいと思えます。

さて、今年の本校のトップニュースは、何と言っても「学校創立50周年」だと思います。10月2日には、記念式典が開催されました。私は、今回、この周年行事に出会えた生徒たちや教職員さらには保護者の皆様はとても幸せだと思います。巡り会おうと思っても巡り会えることではありません。記念体育祭、記念文化祭、厳かな記念式典。どの場面にも生徒の笑顔がたくさん見られました。そして多くの感動がありました。大勢の来賓の方々や一般市民の皆様から、「生徒の態度がすばらしい」「校歌の歌声には感動した」など、心からのお褒めの言葉をいただいたことは本当に嬉しいことでした。

震災のあった年で、当初、周年記念行事についても実施するにあたり戸惑いはありました。しかし、生徒たちが元気に笑顔でいてこそ、学校が、町が、そして大げさになりますが日本という国も元気になるという考えのもと、50周年を祝ってきました。お陰さまで、本当に多くの方々为学校に来てくださり、今の丸中の姿を肌で感じていただき、笑顔でお帰りいただけたものと思っています。

学校の内外で、丸中の生徒の「おはようございます」「こんにちは」という声に励まされますという声をお聞きすることがあります。私自身、生徒たちの笑顔や元気なあいさつに勇気もらうこともしばしばです。50年の節目の年を迎えた現在の丸岡中学校は、あいさつのできる生徒と思いやりのある生徒がたくさんいる学校だと、私は思っています。

この子どもたちとともに、来年はさらに礼儀や思いやりのところを大事にしながら、皆様に愛される学校を作っていきたいと考えています。いじめなど、思いやりに反する行為は絶対に許すことなく、もしも、そういうことがあれば早急に対応をしていきます。また、学校に来づらい生徒には、その立場を的確に理解し、カウンセリングの知識を身につけながら根気よく愛情をもって対応してまいります。

多くの方々に愛され続けてきた丸岡中学校。生徒たちにとっても保護者のみなさまにとっても大切な学校を、来年もさらにみなさまのお力をお借りして発展させていきたいと考えています。どうぞよろしく願いいたします。

最後に、みなさまにとって来るべき新年が、良い年となりますよう心からお祈り申し上げ、今年一年のお礼のごあいさつとさせていただきます。

平成23年12月20日

坂井市立丸岡中学校長 大代紀夫